

研究主題「情報化社会に対応した道徳性の育成

～情報モラルを育てる道徳の時間の指導の工夫～

東京都教職員研修センター 研修部 企画課
町田市立本町田小学校 教諭 井上 莉委子

研究のねらい

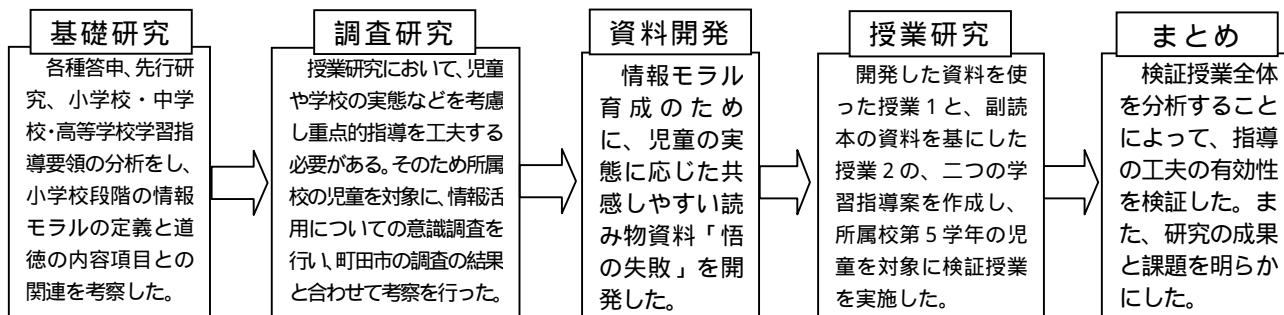
現代は、子どもたちがコンピュータや情報通信ネットワークに接する機会が増えてきている。また学習指導要領に「各教科の指導に当たっては、児童がコンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段に慣れ親しみ、適切に活用する学習活動を充実する」と記されている。

このように情報通信ネットワークに接する機会が増え、ネットワーク上のコミュニケーションが多くなっている一方、ネットワークの利用によるトラブルも増えている状況等が見られる。そのため情報化社会においても適正な活動ができるように、情報モラルの育成が迫られてきた。

情報モラルは日常生活上のモラルと密接にかかわっているため、小学校からの道徳教育においても、情報モラルを意識して扱っていくことが重要であると考えた。

そして道徳の時間に、情報モラルにかかわりのある道徳的価値の自覚を深めるための指導の工夫が重要であると考え、上記の研究主題を設定した。

研究の内容と方法



研究の結果と考察

1 基礎研究

情報モラルと道徳教育との関連性を明らかにするため「情報化の進展に対応した初等中等教育における情報教育の推進等に関する調査研究協力者会議（文部省）」、「情報教育の実践と学校の情報化～新情報教育に関する手引～（文部科学省）」、学習指導要領等をはじめとする文献研究を行った。

情報モラルとは、「情報社会において、適正な活動を行うための基になる考え方と態度」であるが、小学校段階からの指導については、小学校学習指導要領にはっきりした記述はない。しかし、情報化社会においてよりよい生き方を目指していくためには、情報モラルの育成は不可欠であり、その重要性は増している。そのため発達段階を考慮し、小学校段階で目標とする情報モラルを定義した。

情報モラルは日常生活上のモラルと密接にかかわっており、情報モラルの育成は道徳教育ではぐくまれる道徳性と関連付けて指導していく必要がある。

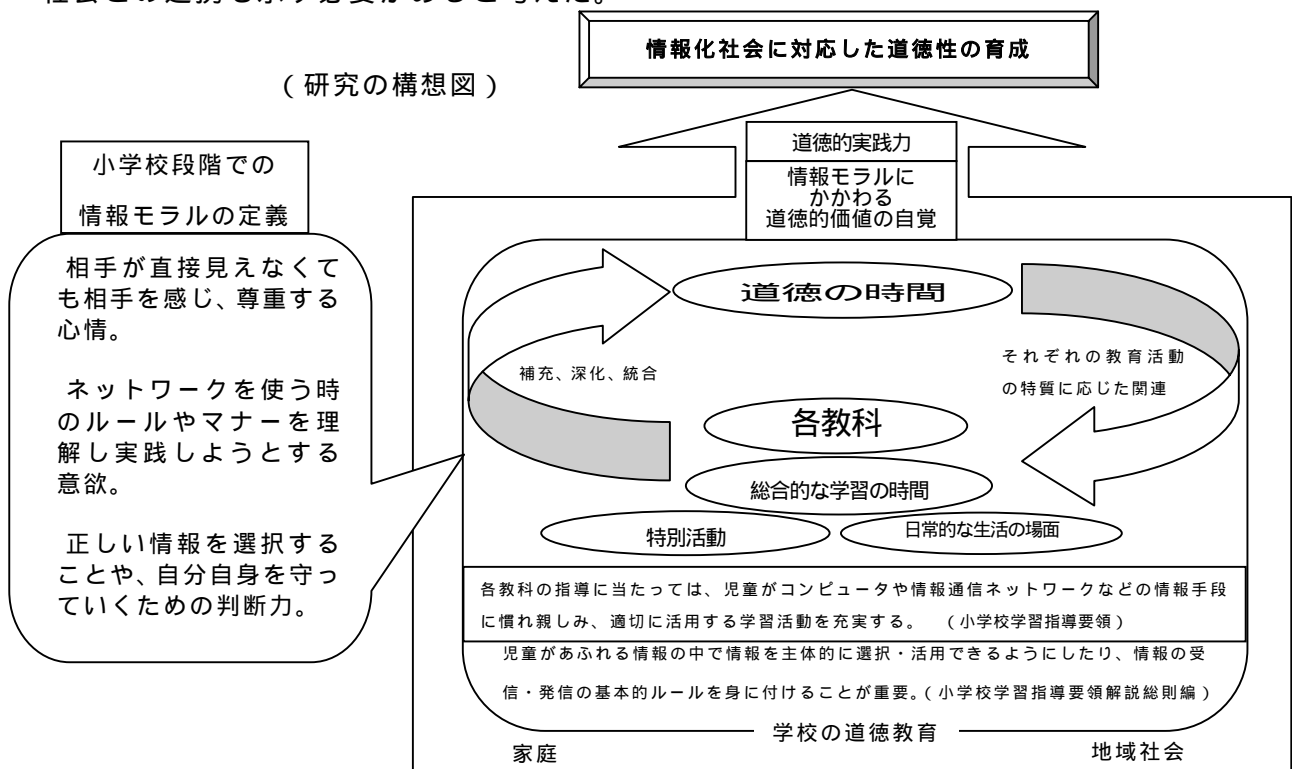
そこで、どのような視点で指導していくかについて道徳の内容の四つの視点との関連性を分析した。その結果、次のように三つの視点と特に深くかかわることが明らかになった。

かかわりのある道德の内容の視点	情報モラルの内容
1 主として自分自身に関すること。	情報に基づいて、何が正しく、何が誤りであるかを自主的に考え、結果を予想して責任を負う能力を身に付けさせる。
2 主として他の人とのかかわりに関すること。	基本的には人と人とのコミュニケーションであり、相手の立場に立って情報を交換しようとする心構えや態度を育成する。
4 主として集団や社会とのかかわりに関すること。	他の人の作り出した情報に価値を認め、これを尊重する態度の育成を図る。

情報モラルを育成するためには、上記の道德の内容の視点とのかかわりを強く意識し、日常的・継続的かつ計画的な指導が大切である。

特に、情報モラルを身に付けるためには、道德の時間をかなめとしながら、体験活動と関連付けて指導することが効果的であると考えた。そのため研究を進めるに当たっては、道德の内容と各教科、特別活動及び総合的な学習の時間における指導との関連並びに家庭や地域社会との連携も示す必要があると考えた。

(研究の構想図)



2 調査研究

授業研究で、情報モラルの育成のためにどの内容項目を重点的に指導するかを明らかにするために、調査研究を行った。以下に結果と内容項目を示した。

所属校アンケート 調査の主な結果 (第5学年 99名) 平成16年、7月実施	ネットワーク利用の目的・・・主に閲覧であるが電子メールなどのコミュニケーションへの関心もある。反面、電子メールやチャットなどに不安を感じている児童もいる。 情報モラルについて学んだ経験・・・あると答えた児童は20%強いるが、学校で学んだ児童はならず、保護者からの使用制限や、知っている知識についても不正確なことが多い。	携帯電話の使い方を 見て困ったと感じたこと
インターネットなどの利用 状況に関する調査の主な 結果 第6学年(3151名) 中学校 第2学年(2634名) (町田市教育委員会 平成16年、6月実施)	自分で自由に使えるインターネット接続のコンピュータ・・・あると答えた6年生は53%、中学2年は66%。 チャット、掲示板の利用・・・中学2年になると4人に1人で、電子メールは2人に1人の割合になっている。 携帯電話での電子メール・・・6年生は20%近く、中学2年生になると50%近くになる。また、これから電子メールをしてみたい人数を合わせると6年生では66%、中学2年生では82%になっている。	

調査結果を受けて 以下のように内容項目を明らかにした。

内容項目	<p>検証授業1 パソコンの向こうに相手がいることに気付く。相手の気持ちを考えて情報を発信することの大切さを理解する。文字のみのコミュニケーションのため、相手に誤解のないように時と場をわきまえる必要性がある。そのために、心のかもった接し方が大切だという道徳的心情を育てる。</p> <p>→ 高学年2-(1)時と場をわきまえて、礼儀正しく真心をもって接する。</p>
	<p>検証授業2 車内での携帯電話の使い方を考える活動等を通して、自分も他人も気持ちよく生活していくためには、ルールや基本的なモラルが大切であり、自他の権利を尊重しようとする道徳的实践意欲を育てる。</p> <p>→ 高学年4-(2)公德心をもって法やきまりを守り、自他の権利を大切にしながら義務を果たす。</p>

3 資料の開発

検証授業（内容項目 高学年2-(1)）で扱う資料について、12社の道徳副読本の資料分析を行ったが、情報モラルを直接取り扱う資料が少なかった。直接、情報モラルの「相手が直接見えなくても相手を感じ、尊重する心情」を育成する本時のねらいに迫るために、児童の実態の考察結果に基づきながら、検証授業1では自作資料を開発することにした。

資料「悟の失敗」は、所属校の児童の生活状況に即し共感しやすく、主人公を通して心情を深く考えられるような場面設定の工夫をした。この資料を通して、友達同士でも電子メールなどを書いて気持ちを伝えるときには、丁寧な書き方をする等、相手を考えることの大切さを実感させることをねらいとした。なお、自作資料作成においては、人権に十分配慮して表現を考えたりイラスト等を作成したりした。

「悟の失敗」のあらすじ

サッカーが大好きな5年生の男の子二人の話である。二人は普段から乱暴な話し方をしているが、二人の心は通じ合っている。ある日、サッカーの試合でその親友がミスをしてしまう。直接励まされなかったことに気付いた主人公の悟は、電子メールを送ることにする。しかし、その電子メールを読んだ親友の態度が急に変わった。悟は他の級友から電子メールの文の書き方がいけないと教えられる。悟はいつも自分たちが話しているように書いていただけだったが、励ましの気持ちはその文からは伝わらなかった。

4 検証授業

(1) 指導の工夫

	情報モラル	資料について	主な指導の工夫
検証授業1	相手が直接見えなくても相手を感じ、尊重する心情	情報モラルのねらいを直接取り扱う自作資料 「悟の失敗」を開発した。	各教科等との関連をもたせた指導の工夫 ・児童の体験活動を生かして道徳的価値の自覚を一層深めていくために、総合的な学習の時間の年間指導計画に関連をもたせて検証授業を位置付けた。 資料提示における工夫 ・資料を理解しやすいように、場面絵を貼りながら、範読した。 ・電子メールの特性を実感して、話し言葉と書き言葉との感情の伝わり方の違いを深く理解させるために、電子メールの内容はプロジェクターで映し、視覚的に訴える提示の工夫をした。
検証授業2	ネットワークを使う時のルールやマナーを理解し実践しようとする意欲	情報モラルのねらいを直接取り扱わない道徳副読本の資料「遠足の子もたち」を使って、情報モラルのねらいに迫れるようにした。	学習過程の工夫 ・車内でのきまりを守ることを実感できるように、役割演技を取り入れた。 ・車内での携帯電話の決まりに気付かせるために、教室に車内のマナー表示の写真を貼ったりアナウンスを流したりと、具体的に情報にかかわる場面を提示しながら説明をした。 説話の工夫 ・終末の説話にペースメーカーを使用している人の話を取り入れ、車内にはいろいろな人が乗っていることを深く理解できるようにした。

(2) 検証授業の結果と考察

実施日時 主題名、資料名等	児童の気付き等（複数回答有り）の結果 （ワークシート、保護者の感想等より分析）	考 察
第1回 内容項目 高学年 2-(1) 主題名 「時と場をわき まえた言葉で」 資料名 「悟の失敗」 （自作資料） 情報モラル とのかかわり 児童 33名	1(検証授業の前の、総合的な学習の時間を通して) 電子メールがきちんと相手に届いて嬉しい、もらえて嬉しい、33人 変な電子メールが来て嫌だった、8人 電子メールをもらった相手はどんな気持ちだろうか、2人 2(検証授業を通して) いつも使っている言葉も、相手の気持ちによっては通じない、18人 丁寧な言葉遣いにしないと相手が誤解する、7人 その他 8人 3(家庭で子どもから聞いた授業など、保護者の主な感想) 相手の身になって考えるということの大切さを話し合った、6人 会話と活字は印象が異なり、このような授業は大切、3人 親子で話し合うよい機会になった、5人 4(検証授業の後の、総合的な学習の時間を通して) 自分の電子メールを振り返って、よいやり取りができていた、15人 相手のことを考えていない時があった、13人 ぶざけていた、13人 (これから電子メールを書く時は、どんな気持ちで書きたいか?) 相手の気持ちを考える、19人 ぶざけない気持ち、5人 相手が嫌がるようなことはやめる、4人 楽しい気持ちを伝える、3人	検証授業前の総合的な学習の時間で電子メール等を通して友達との交流を始めた時には、技術的にできるかどうかに関心が向き、相手の気持ちを考えて電子メールを書こうと意識する児童は少なかった。 しかし検証授業で主人公に共感し、話し言葉と異なり感情が分からないという電子メールの特徴を理解し、相手に誤解の無いように丁寧な言葉遣いにした方がよい等、道徳の心情の深まりが見られた児童が七割以上になった。 また、検証授業後の総合的な学習の時間を通して、今までの自分が送った電子メールを振り返って考えたり、相手のことを考えたりして、電子メールを書こうという姿が見られた。
第2回 内容項目 高学年 4-(2) 主題名 「みんなのため のきまり」 資料名 「遠足の子も たち」 情報モラル とのかかわり 児童 33名	1(今までの自分を振り返って) あまり周りのことを考えていなかった、自分がしていたことが周りの人には迷惑だったと実感した、20人 気をつけていたつもりだが迷惑だったかもしれない、10人 2(検証授業を通して) 周りの人の迷惑にならない様に、決まりを守っていきたい、17人 ペースメカをつけている人もいるから電源を切るなど気を付けたい、12人 家族や他の人に教えたい、7人 大切なこの授業を中学生、高校生にもやって欲しい、1人 3(家庭で子どもから聞いた授業など、保護者の主な感想) 子どもに携帯の決まりの意味がよく分かった、13人 家庭でこれからも話し合っていきたい、自分も気を付けたい、9人 役割演技など臨場感があり 授業が分かりやすかったようだ、4人	役割演技をすることで、より具体的に周りの人とかかわり方を考えることができ、ほとんどの児童が自分のしていたことが迷惑だったと実感した。 説話等を通して、携帯電話はそれ自体が電磁波を発生しているため、ペースメカなどの精密機器に誤作動を生じる可能性があるということも理解した。また車内にはいろいろな人が一緒にいるため、気持ちよく過ごすには車内での携帯電話の決まりも含めて、車内の決まりを守ろうとする心の変容が、多くの児童に見られた。

研究の成果と今後の課題

1 研究の成果

検証授業の指導の工夫を通して、児童はあまり意識していなかった情報通信ネットワーク上の相手を意識し、自分とかかわりの中から道徳的価値をとらえ、道徳の心情が深められた。また、道徳の時間と各教科等との関連をもたせた指導を行うことで、より情報モラルにかかわる道徳的価値の自覚が深まり道徳の実践力が高まったと考える。

今回は総合的な学習の時間との関連をもたせた授業例を示したが、他にも社会科の通信などの産業について調べる学習などとの関連をもたせるなど、様々な関連が考えられる。

情報の体験活動との関連を視野に入れて、道徳の時間の指導で補充、深化、統合することでさらに情報モラルにかかわる道徳的価値が深まり道徳の実践力が高まることが分かった。

2 今後の課題

検証授業では、情報モラルの育成につながる児童の心の変容が見られたが、道徳教育の効果は、比較的すぐにはっきり表れるものと、中・長期的にみることで変容を把握できるものがある。そのため、今後も保護者等との連携を図り、広い視野から継続的・総合的に評価していくことで研究をさらに深める。

また今回は児童の実態調査から情報モラルの定義 に主眼を置いた、道徳の時間の指導の工夫をしたが、情報モラルの定義をも視野に入れ道徳の内容項目の関連性を考慮した年間指導計画の作成等についても、今後さらに研究を続ける。